
truthの道

みらい.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

t r u t hの道

【Nコード】

N 0 2 7 9 P

【作者名】

みらい・

【あらすじ】

主人公、白月 乃人と相棒のs h a d o wの1人1つが” t r u^{しん} t hの道”を旅するお話です。
後は読んでお楽しみください。

プロローグ（前書き）

この世には真実と嘘の2つで塗り固められています。

この大きな道の名前は”truthの道”です。

”truth”とは、”真実”という意味です。

人は神という嘘からの命令により、その道を歩いています。

また、1人と1つが”truthの道”の門の前で立っていました。

それでは少しばかり、この1人と1つの旅路を見ていきましょう。

プロローグ

軽く太陽が僕を照らしています。

そして同じ太陽が、僕の隣の彼を照らしています。

僕の名前は白月 乃人。そして彼の名前は shadow^{シャドウ}です。

shadowは武器職人「メイク」により創られた意思を持つ武器です。

普段は普通の・・・いや、優しい人間です。そして、今もです。

門の前で ・ プロローグ

「ここがtruthの道か・・・」

乃人はそびえたつ大きな大きな1つの門の前でそう呟きました。

乃人は茶色のコート、グレーのゴーグル、何十年も前からあったような古着を来ています。

黒い髪の毛、ブラウン色の目、とても綺麗なネイル。と言ってもギヤルのようなネイルではない。シンプルだが、とても綺麗です。

と・・・色々あるが、やはり1番は乃人の身長です。彼の身長は152cmなのです。

「そうだね、先も見えないし横もどこまでなのか分かんないよ」

乃人とほとんど同じ格好のshadowが言いました。

確かにそうです。左を見ても前を見ても右を見ても全く先が見えません。

この道はtruthの道つまり、”真実の道”なのです。

この道は今乃人が居る時代から300年前つまり、

2500年前後にとある博士により発見されました。

この道はとても長く、最後まで行けた人は恐らく居ないでしょう。

乃人は門の入り口前で鎧で覆われた体の男の前に立ちました。

「えーっと、門番さん。許可書を下さい」

乃人は3日前家に届いていた手紙をさしだしました。

門番らしき人は重くなった体で手紙に大きなハンコを押しました。

乃人は内心、『あんなに重い鎧が必要なのか?』と思いました。

「はい、ありがとうございます」

鎧の中にきらりと光る何かが見えたような気がしました。

shadowは心の中でこう思いました。『あんなに重い鎧が必要なのか?』と。

そして、1人と1つはtruthの道に足を踏み入れました。

と、言っても何も起きません。これから起こすのです。

プロローグ（後書き）

こんにちは。みらい・と申します。

新作（初投稿作）です。どうか暖かい目で見てやってください。

初回なのにあとがきのネタが無いです。

次回は地獄・FAST／バスを掲載します。
パラダイス

タイトルは「地獄・FAST」です。
パラダイス

お楽しみに。

b yみらい・

地獄（パラダイス） ・ F A S T（前書き）

間違ってアクセスしてしまった方は速やかに画面左上の「戻る」というボタンをクリックするか、このページを消してください。

【素直に読んでくださる方へ】

乃人は「ないと」と読みます。

今回のお話は3部構成です。

続きはいずれ掲載したいと思います。出来たら良いですね。

地獄（パラダイス） ・ F A S T

パラダイス
地獄

「誰か、誰かこいつを捕まえてくれ！！」

どこからかとても大きな声が聞こえました。

鼓膜が破けるほどではないですが、煩いです。

大きな声の主は普通のおじさんでした。

乃人はそれをスルーして先を急ぎました。

shadowはそれに向かって仲裁しようと思いました。

「行くのかい？」

「うん、困ってる人居るみたいだし」

「でも、無理に顔突っ込んででも厄介なことになるだけだよ」

「それでもいい」

歩いていくshadowに乃人はついて行きました。

その人が居る街は宿屋、酒場、八百屋、肉屋、魚屋が一軒つつあるだけでした。

後は民家が数件あるだけです。

それぞれの家も錆びれていて、道には雑草が生え放題でした。
まさに天然芝生です。

あれだけ僕らを照らしていた夕日もとうとう見えなくなりました。
そうやってふらふら歩いていると、行きたくもないのに目的地に着きました。

丁度そこは宿屋の前でした。

宿屋の看板は天然芝生に落ちていました。

そして看板の代わりに壁にInnと書かれていました。宿屋という意味です。

「誰かコイツをとっ捕まえるんだ！」

その声と共に数人の男が少年を捕らえました。

少年は雑巾みたいな服を着て、1枚の汚れた毛布を羽織ってました。

大きな声の人から叩かれたり、蹴られたり、まるで子供のイジメのようでした。

もう一度……これで何回目か分からないくらいその大きな声を発しました。

ですが、いままでと少しセリフが違いました。

「誰かこいつに罰を与えてくれ！」

すると、奥の方から黒いスーツを着た男が2人、やってきました。

それに気付いた少年は殴られながらも、驚き、慌てふためきました。

そして、それが近づくのが分かると急に暴れ狂いました。

その男たちはその暴れ狂う少年を捕らえて、連れて行きました。

2人で片方ずつ肩を押さえ、連れて行きました。

暴れ狂うまでの少年を押さえながら連れて行きました。

遠く、遠くまで。その逝かれ狂う少年を連れて行きました。

突然の事に乃人も驚きました。

ですが、冷静にさっきまで大きな声をあげていた人の所に向かい、こう聞きました。

「何があっただんですか？」

shadowは乃人以上に驚いて、ぽっかり口を開けたままでした。

ですが、やっと乃人に気がついて、走って行きました。

走っていくと、もう乃人が質問していたので、「ですか？」とだけ行ってみました。

当然の事ながら、「何だお前達！」と問われました。

乃人は、「旅のものです」と、応えました。

「旅人か、帰れ！お前らに話しても仕方がない」

「そう、言わずに！あの少年はどうなったんですか？」

「どうなったって、連れてかれたよ」

「どこに？」

それだけはshadowが応えました。

たとえ意思を持っていたてもまだ喋れない単語もあるので、短い文で楽をしました。

男は少し黙って口を開きました。

^{パラダイス}
「地獄……」

「パラダイス？」

あたりは暗く、民家にちらほら明かりがつき始めました。さきほどの男に質問しても何も応えてくれませんでした。乃人はそこで一晚を過ごすことにしました。

今日は三日月です。綺麗な綺麗な三日月です。

shadowはずっとそれを眺めて云いました。

「綺麗だね」

乃人は重い瞼をすっくり開いて三日月を見て云いました。

「だって、三日月だもん」

すると、三日月は暗い雲に隠れてしまいました。

それを見て、shadowは宿屋のボロボロの布団の中に入りました。

強く、冷たい風が罅の入った窓を叩きました。

その風が窓の隙間から入ってくるので、ボロボロの布団を通り抜け、涼しく感じます。

乃人は布団だけでは物足りないので愛用の茶色いコートを被りました。

そして、闇のような日は終わりました。
ですが、旅は今始まったみたいなものでした。

次の日。

街中を歩いては質問して回りました。

しかし、あの少年が連れて行かれたのは地獄パラダイスということと、
あそこは別の街と繋がる道だと言うことだけです。

でれだけ分かってても仕方がないので、その街を後にしました。

この街の名前は「ナウル」という街でした。
繋がっているという謎の街の名前は「クリスナル」という街だそうです。

入口に1つ大きなお墓あるそうなので、目印になります。
乃人は帰り際、言いました。

「最初の街でこんな終わり方、嫌だね」

shadowの応えはこうでした。

「同じく」

今は朝の9時。昼になれば少し騒がしくなります。
ですが、早く先を目指したいので早めに出ました。
1人と1つの旅はまだ続きます。

地獄（パラダイス） ・ FAST（後書き）

読んでくれた皆様、ご苦勞様でした。

どうか、ご機嫌を損ねないようよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0279p/>

truthの道

2010年11月21日04時53分発行